

渋谷 パルコ・ヒューリックビル

Shibuya PARCO・HULIC building

No. 13-065-2021作成

新築

物販／飲食／集会場／事務所

発注者	宇田川町14・15番地区第一種市街地再開発事業 個人施行者 パルコ		
設計・監理	株式会社 竹中工務店 TAKENAKA CORPORATION		
施工	株式会社 竹中工務店		
カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用
	D. 評価技術／FB	E. リニューアル	F. 長寿命化
	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	I. 周辺・地域への配慮
	J. 生物多様性	K. その他	

街とつながり、にぎわいをつなぐ文化情報発信拠点

1970年代から渋谷の街と共に文化を創り、パルコの旗艦店として発展してきた渋谷PARCOの建替は、「渋谷⇄パルコ」の特性を活かし、「街とつながり、にぎわいをつなぐ」ことをテーマに次なる渋谷の文化を創造・発信する街の拠点となることを目指している。

リアル店舗の意義が問われるなか、道をつくることで街が生まれ、化学反応や混じり合いが文化をつくるというこれまでの「渋谷」「PARCO」が築き上げた一貫した考えを継承し、コンテンツ・建物・まちづくり・都市制度の全ての領域で「にぎわい創出」「文化情報発信」をテーマに構築した計画である。

人々の流れとにぎわいを建物に呼び込む立体街路

渋谷の街の特徴である「坂」や「通り」、街の境界性を建物外周部に立体街路として取り入れることで、地上部での歩行者ネットワークの拡充から生まれる人の流れやにぎわいがそのまま建物に引き込まれ、渋谷らしい境界性とにぎわいに溢れた次なる「街」を創り出している。(図1) また、立体街路には路面店のように張り巡らされたコンテンツや広場が連なり、地上から屋上広場まで続く、パルコならではの新たな文化育成・情報発信のストリート形成している。

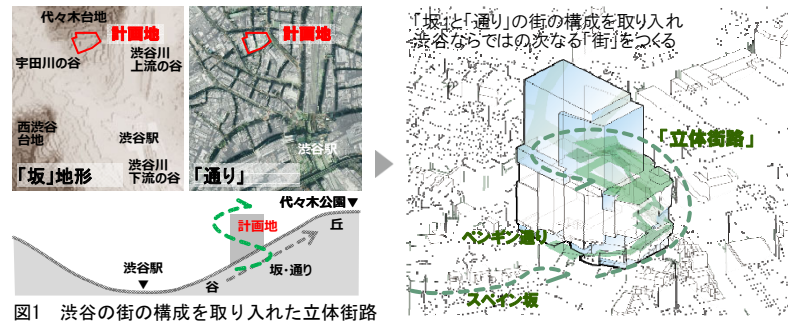
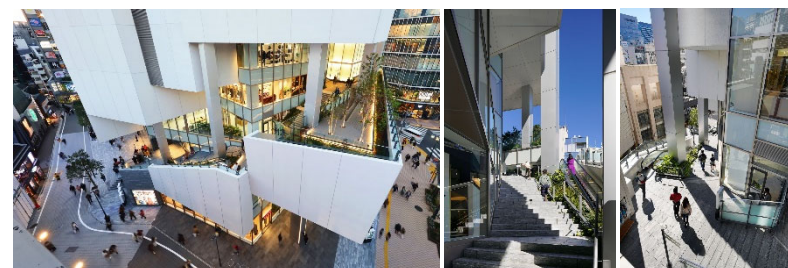


図1 渋谷の街の構成を取り入れた立体街路

街に開かれた文化情報発信拠点の形成

地上部や立体街路、屋上広場には地区施設としての広場を整備し、その活用にあたっては「東京のしゃれた街並みづくり推進条例」のまちづくり団体登録を行い、エリアマネジメントの一環として、渋谷区、地元商店街と連携したイベントを行うことで、より地域に根差した、街に開かれたにぎわい拠点となっている。これらの拠点では、パルコの強みを生かしたファッション・演劇文化の育成施設や、事業化支援を図るインキュベーション施設、独自の演劇文化を国内外へ発信する新パルコ劇場と連動することにより、他の商業施設では類を見ない様々なカルチャーの情報発信を行うことができる新たな拠点を目指している。(図2)



人々の流れとにぎわいを建物に呼び込む立体街路



図2 街に開かれたにぎわい拠点

建物データ	所在地	東京都渋谷区	省エネルギー性能	CASBEE評価	100 S 77 Q 90 0 0
竣工年	竣工年	2019年	BPI (標準入力法)	Sランク	3.0 A 1.5 BEE=10 B 0.5 C
敷地面積	敷地面積	5,385㎡	BEI (標準入力法)	BEE=3.4	3.4 L 50 100
延床面積	延床面積	63,856㎡	LCCO ₂ 削減	2014年度版 自己評価	22
構造	構造	S造、一部SRC造、RC造			
階数	階数	地下3階、地上19階、塔屋1階			

魅力的な屋外空間によるエネルギー低消費型店舗の実現

都心に立地するファッションビルでありながら、居心地の良い屋外空間(立体街路・屋上広場)を整備することで、屋外の街歩きを楽しむエネルギー低消費型店舗を実現している。(図3) サイネージやスタッフ向けWEBには、屋外環境の快適指数を表示することで屋外利用を促進している。また、竣工後に行った外歩き快適性実態調査から、立体街路の気持ち良さが確認されている。(図4)

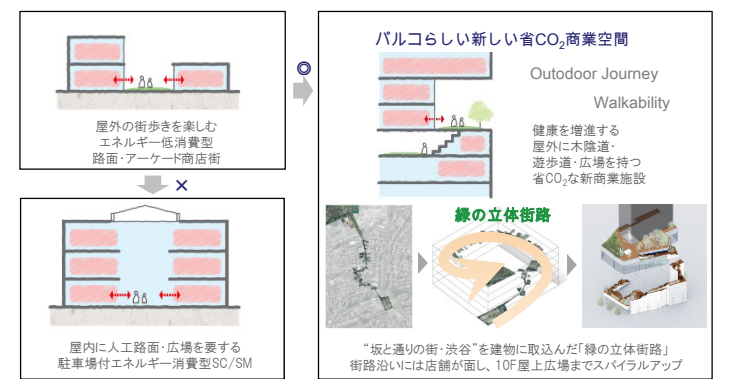


図3 商業施設に求められる「滞留性」「回遊性」を確保するための魅力空間を屋外化

省CO2と非常時のエネルギー自立の両立

本建物は、店舗・劇場・オフィスの複合用途建物である。3回線スポットネットワーク受電・72時間稼働が可能な非常用発電機・中圧ガスコージェネレーションを中心とした高効率な複合エネルギーシステムを構築するとともに、各用途に適した省CO2技術を導入し(図5)、平時の省CO2と災害発生時の自立した電力供給の実現を目指した。

環境認証取得

BELS認証(エネルギー削減率27%)を取得した。また、CASBEE-建築(新築)SDGs試行版の試算を行い、Aランクであることを確認した。



災害時における帰宅困難者支援機能

計画地周辺においては、災害時に多くの帰宅困難者が発生することが予想される。オフィスエントランス・劇場客席・劇場ホワイエ等を帰宅困難者一時滞在施設と位置付け、照明・コンセント・換気機能を発電機電源により部分稼働を可能とした。

緑のオアシスが渋谷をつなぐ

にぎわいにあふれる渋谷の街は、周辺の大規模な公園や住宅街に緑があるものの、街の中心は建物が高密度に詰め込まれ、緑を感じることは少ない。街のストリートでは実現できない緑豊かな空間を立体街路に設けることで、にぎわいに溢れた街歩きの中で、ひと時の休息の場を作り出している。この緑のオアシスはグリーンインフラを広げると同時に、人々の活動範囲を広げ、街のにぎわい・ネットワークの広がりにも寄与している。立体街路の道行きには、人の歩みに沿うように、低木・高木を織り交ぜながら配置(図6)し、人々に癒しを与え、ひと時の休息を得られる居場所をつくりだしている。地上部を歩行者空間として開放しながら、立体街路・屋上広場・壁面緑化などの建物と一体となった緑化により、敷地面積の35%の緑被率を確保している。設計担当者 建築: 濱野裕司 加部佳治 垣谷伸彦 伊谷峰 小岩ほのか 田中亮 吉田泰洋 土屋徹 中川聡一郎 堀内通成 高田瑠莉 / 構造: 石川智章 和田純一 小田島暢之 岡村祥子 三橋幸作 亀森淳也 岡本純 矢島暁 / 設備: 小池正浩 芝原崇慶 塩澤拓馬 榎原勝 中村哲也 / インテリア: 丸林哲 加藤輝信 宮本純子 佐藤有記 常賀茂樹 奥谷将之

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (BCP計画、帰宅困難者支援機能)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (立体街路・屋上庭園・緑化)
- Q3. 3. 地域性・アメニティへの配慮 (人々の流れとにぎわいを建物に呼び込む立体街路)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (Low-Eガラスによる外気負荷低減、南側コア配置)
- LR1. 2. 自然エネルギー利用 (自然換気、太陽光発電)
- LR1. 3. 設備システムの高効率化 (コージェネレーションシステム、排熱を冷暖房及び劇場用デシカント空調に利用)



図4 外歩き『快感』発見の調査結果

図6 低木・高木を織り交ぜながら配置

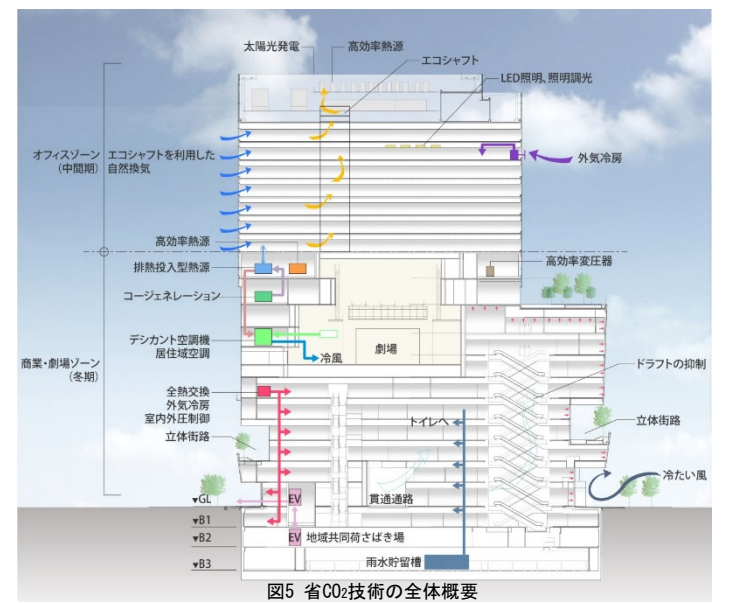


図5 省CO2技術の全体概要